

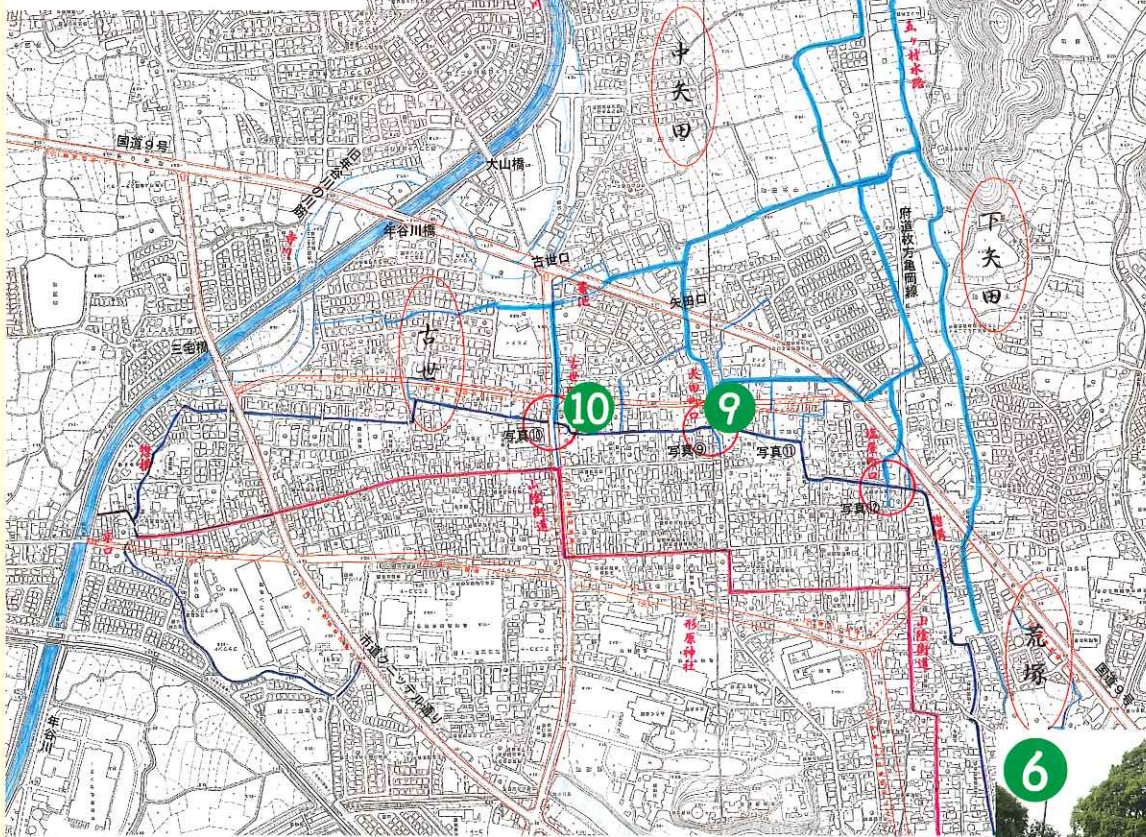
惣構につながる水源の散策

一ノ堰 (いちのいね)

鉾山神社の南に、年谷川から取水し、府道の下をくぐり抜けて水路を形成する構造物があります。それが一ノ堰 (いちのいね) と呼ばれている堰です。取水した流水は、御手洗川となって鉾山神社の境内に達し、やがて、旧五ヶ所村の水田用水となり、その先、堀用水、消火用水となって惣堀、城下へとつながっていきます。

一ノ堰 いちのいね			
設置	1620~30年頃か	城主大給松平氏の頃矢田川を大石・大木で川を数丈堰き止める	旧矢田家資料 桑下漫録
破壊	元禄03年 1690年	70年ほど前に設置した堰が大雨で壊される	桑下漫録
修築	元禄年間	岩を鑿ち溝を掘る。延1万余人。城主久世重之の頃	桑下漫録所収「社記」
規模	1750年代	取水口／凡上下左右4尺 長さ45間 宝暦の大洪水に関して堰堤／高3間・上幅7間・下幅3間半	桂家文書 町年寄御用留日記

この資料は、永光 寛氏の講演資料を参考にして構成したものです。



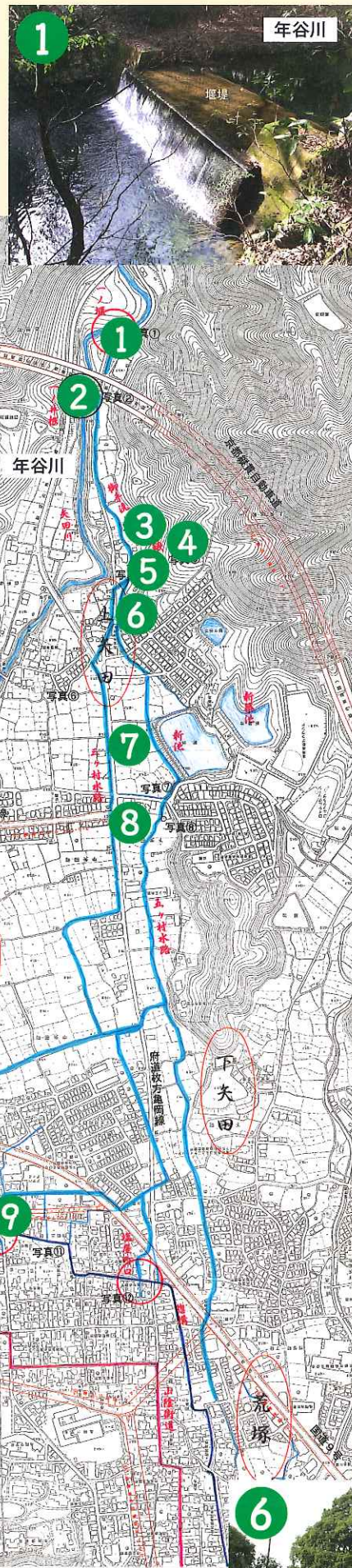
丹波亀山城惣構跡保存会

資料第3号 2016.3 発行: 小川 博 編集: 児嶋俊見

□お問い合わせ□ ☎0771-22-0020 (小川)

監修
永光 寛

印刷: 天声社



「一ノ堰」でせき止められた水は、岩をくりぬいた取水口から鉾山神社の境内に向かって流れます。



鉾山神社の境内には、御手洗がありその先には「分水石」が置かれています。ここで、運ばれてきた水は、10 対 9 の割合で分水され、二つのルートに分かれます。



一ノ堰について、「桑下漫録」に記録があります。〔資料1.2〕

〔資料2〕
「社記」 (桑下漫録所収)

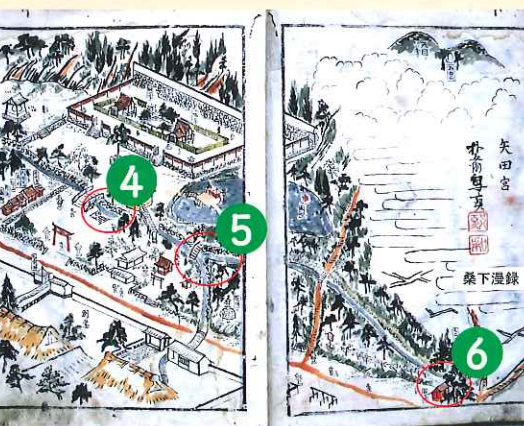
社記日 元禄三年庚午八月十四日南山大雨一堰潰決矣昔松平将監築之到于今既及七十年矣矢田野水竭龜山城井瀧太守命有司鑿岩掘溝而以引水人工一万余夫每夫賜糈米二升

此鑿岩処闊溝凡上下左右四尺許而長四五間也

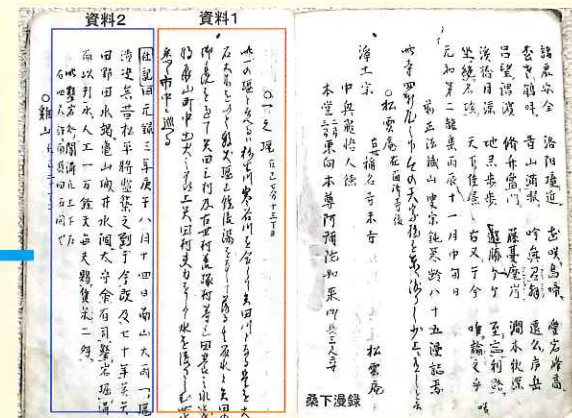
江戸時代の初めの頃、当時の城主「松平将監」が築いた「一ノ堰」が1690年8月14日の大雨で崩壊した。それ以降、城内の井戸も枯渇する有様であった。城主「久世重之」は、延べ1万人の作業員を使い、鑿 (のみ) で岩を掘り抜き新たな取水口を設け、用水路を復活設置した。

東ルート (割合 10) 現在は「三ヶ村水路」とよばれ、上矢田、中矢田、古世の用水として活用されました。西ルート (割合 9) 現在は「五ヶ村水路」とよばれ、上矢田、中矢田、古世、下矢田、荒塚の用水として活用されました。

都市計画図と絵図をもとに水路の調査をし、地図上に青色に着色しました。ただ、住宅地になっており、確認ができない箇所については記載していません。また、現在使われている水路が建設された当時のものと一致しないこともあります。



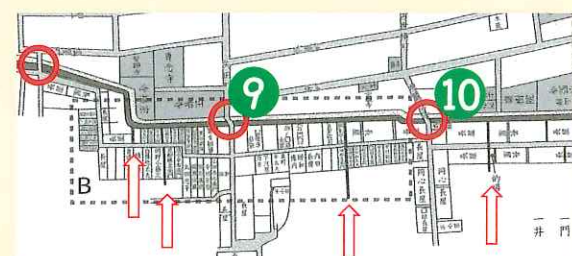
二つのルートから流れ下った水田用水は、やがて惣堀に達します。その水は、4カ所の水路から惣堀に流れ込みます。また、城下へ流入の消火用水路は、「塩屋町口」「矢田町口」「古世町口」の3か所と考えられます。現在、「矢田町口」「古世町口」の2カ所は形状を確かめることができます。⑨の写真は「矢田町口」の現在のようなすです。



〔資料1〕
一之堰
いちのいね (桑下漫録)

此一の堰と言へるは、杉生川寒谷川を合して矢田川となる。是を大石大木を以て数丈堰止、余流瀑をなして落る。其留水者矢田の御手洗を通して矢田三村及古世村荒塚村等迄田養之水と成爲、龜山町中出火之節上矢田村夫力をして水を流さしむ。此水悉く市中に巡る。

年谷川を巨岩・大木で堰き止め、取水口から取り入れた水は、鉾山神社の御手洗を経て、上・中・下矢田、古世そして荒塚村の水田用水となり、城下火災の時は惣堀を越え悉く城下を巡るように仕組みられている。



地形と水路の設置を考えれば、城下へ流入の消火用水路は「塩屋町口」「矢田町口」「古世町口」この3か所のみである。

亀山御城并家中惣町筋図
寛永松家文書
亀岡市文化資料館第26回特別展図録より



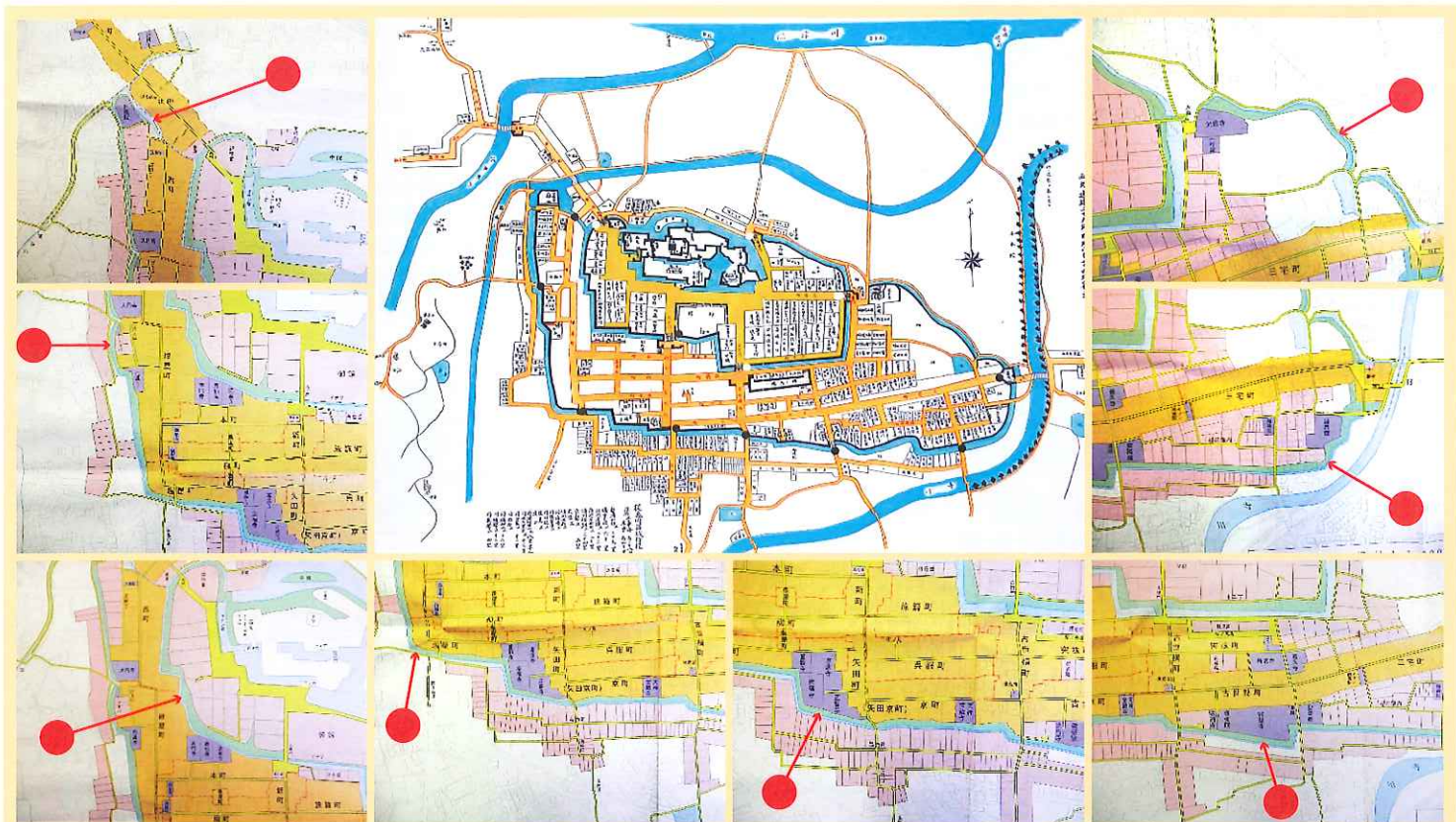
二つのルートから流れ下った水田用水は、やがて惣堀に達します。その水は、4カ所の水路から惣堀に流れ込みます。また、城下へ流入の消火用水路は、「塩屋町口」「矢田町口」「古世町口」の3か所と考えられます。現在、「矢田町口」「古世町口」の2カ所は形状を確かめることができます。⑨の写真は「矢田町口」の現在のようなすです。

丹波亀山城を囲む三重の防禦

内堀、外堀、そして惣構で囲まれた丹波亀山城。その最も外に構築されたのが、惣構(そうがまえ)です。その長さは、約2.9キロメートル。堀(惣堀)と土塁で形成されていました。光忠寺下から三宅町へ、そして、西に向けて、古世町、京町、矢田町、紺屋町、さらに西町から北町へと水路となった惣堀をたどることができます。

途中、マツモト中央店の傍の水路には、南から延びる水路が惣堀を越えて北に延びる仕組みがあります。また、矢田町の消防ポンプ倉庫傍にも同じ仕組みを観ることができます。かつて、堀用水として、城下の消防用水として、また水田用水として活用されました。

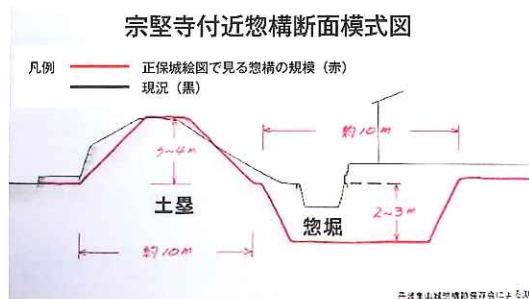
その用水の源の一つが、年谷川であり、鉾山神社の南、京都縦貫道より 100m 上流の堰から取水する仕組みがあります。それが、一ノ堰(いちのいね)と呼ばれる堰です。詳しくは、裏面をご覧ください。



出典 新修亀岡市史 付図 寛政5年(1793)旧矢部家資料及び丹波亀山城下町復元図

現地調査にあたっては、正保絵地図、矢部家資料、丹波亀山城下町復元図を参考にし、亀岡市都市計画図(1/2500)と対照しながら惣構跡の現況を調べました。亀岡市の文化財に指定された5カ所のうち宗堅寺の土塁と惣堀を実測すると、文献による記述とは様子が大きく変わっていることが分かります。

惣堀跡は、一部暗渠部分はあるものの水路として残されています。土塁は、年々消滅しつつあります。



21 地域 北部

丹波亀山城惣構跡保存会

散策マップを作成

調査成果、写真交え紹介

丹波亀山城惣構跡保存会

宗堅寺

京都市のお土居見学

惣堀で実地研修

丹波亀山城惣構跡保存会の活動

丹波亀山城惣構跡保存会の会員は、さまざまな方法で調査活動や保存活動を進め、広報活動も行っています。



昌寿院



誓賢寺



宗福寺



古世総合センター



宗堅寺

実測調査



オギヤ酒店2F会場風景



宗堅寺

植生調査



宗福寺



亀岡祭の期間、
酒店の2階を
会場にして、
市民向けの啓
発展示をしました。



裏庭の惣構跡を大
切に保存されてい
るお宅を訪問しま
した。(京町)



大圓寺で絵図の解説をうける

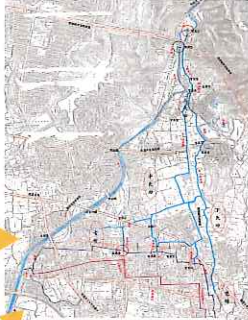


京都市のお土居見学



現地調査

中矢田町の水路



水路調査の記録



市長との懇談
も行い惣構跡
の状況と保存
に向けた課題
について意見
を交しました

惣構跡保存に
ついて市役所
の担当者と懇
談しました



鉾山神社(水路について)



惣堀で実地研修